



# 学校だより

## 12月号

横浜市立六つ川台小学校  
令和4年11月30日

URL: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>  
E-mail: [ky-e-mutudai@city.yokohama.jp](mailto:ky-e-mutudai@city.yokohama.jp)

### ひとりひとりに適した学び

教務主任・児童支援専任 高味 裕二

ある調査によると、「学習面あるいは行動面で著しい困難を示す子」は小学校に7.7%いるそうです。割合として多くないものの、決して見逃してはならない数字です。「家で日本語をあまり話さない子」は2.9%、「年間30日以上欠席の子」は1.0%、別の調査によれば、「不登校傾向にある子」も含めるとその割合は11.8%にも至るそうです。いろいろな難しさに直面している児童に対して、適切な支援が求められています。

このような中、六つ川台小学校では、学習面で支援を要する児童の学習の場として、特別支援教室を保健相談室に設けています。週1~3回、主に当該学年の内容に加え、個の実態に応じた補充指導をしています。最近では、学習の場としてだけでなく、日本語指導や登校支援の場としても活用するようになりました。

一	千	百	十	一

学習支援の例を挙げてみます。左の教具は、位取り表と呼ばれるものです。学級ではこれが共有ツールになりますが、漢字が苦手な子にはどうでしょう。日本語が難しい子にはどうでしょう。仕組みの理解が難しい子にはどうでしょう。

	0~9	0~9	0~9	0~9	0~9
一万の位	千の位	百の位	十の位	一の位	
	1000	100	10	1	

特別支援教室では、これまでにしかかわった子とのやりとりを通じ、位取り表を右のように加工しました。また、位ごとに色分けするなど、補助的なツールを工夫して自力解決の支援をしています。

時には、小学校より専門的な支援が求められる場合もあります。

ケースにより様々ですが、横浜市立小学校では、通級指導教室(情緒・言語・難聴)、日本語支援拠点施設、登校支援機関等と連携し、助言をいただいたり、通所してスキルトレーニングに取り組んだりすることができます。

私自身、児童支援専任4年目となりますが、これまでにこういった支援の実態や機関連携について話題にする機会が少なかったため、この場をお借りすることにしました。多様なよさもある一方で、多様な困難さもあります。小学校にできることには限りがあるのは確かですが、関係機関に協力を得ながら多様なニーズに答えていくことで、一人ひとりに適した学びを保障していきたいと思っています。

2022年も大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。